



会報 第1号
2005年12月



第1期報告会にて

Contents

- ・はじめに
- ・第二期プロジェクトコンセプト
- ・第二期大日程
- ・第二期組織
- ・各パートの現状
- ・スポンサーの皆様へ
- ・ファカルティアアドバイザーより

はじめに

私たち TUS Formula Racing は昨年 4 月発足してから第 3 回全日本学生フォーミュラ大会へ向けて活動をしてきました。そして 2005 年 9 月の第 3 回大会に出場を果たし総合 21 位、ルーキー賞 2 位という結果を得ました。ゼロからのスタートでここまで来られたのもご協力して下さった皆様の多大なご支援ご協力があったからであります。やはりこの活動は様々な人の協力なしには成り立たないと深く実感しております。同時に活動を通して様々な方たちと繋がりを持ち、メンバーだけでなくご協力して下さる皆様と共に一つの車両を作れるということがとても魅力であると思っております。

発足より第 3 回大会までの活動を第 1 期プロジェクトとして区切り、現在私たちは気持ちを新たに第 2 期プロジェクトとして 2006 年 9 月に行われる第 4 回全日本学生フォーミュラ大会に向け活動しております。

第 2 期プロジェクトでは第 1 期活動の経験を生かす一方で、その経験から生じる既成概念に捕われず改めて自分たちで車両の要求に目を向け、使う人にとってより良い車両を製作していこうと思っております。

私たちはこの魅力ある活動を続けていきます。そして、常に自分たちが活動できる背景に感謝する事を忘れず、メンバーも車両も成長していけるように自分たちの全力をぶつけて車両製作に取り組んでいきます。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第 2 期プロジェクトリーダー
安居 鉦平



fig. 1 リーダー引き継ぎ

第二期プロジェクトコンセプト

「*Good Work on NEXUS*」

第二期チームは第4回学生フォーミュラ大会にて全競技参加・完走及び総合10位以内を目標に活動します。私たちは第一期プロジェクトで得た知識・経験を繋ぎ、マシン製作に生かしていきたいと思っております。そうすることで第一期では果たせなかった「全競技参加・完走」を達成し、10位以上に食い込んでいけると確信しています。

この目標に向かって活動するにあたって、プロジェクトコンセプト「Good Work on NEXUS」を打ち立てました。

「Good Work」は製造物をその目的に対して定まった基準の範囲を超え、自分たちの判断で責任を持って追及していく事を指します。“自分の作るものに対して魂を込める”これこそが私たちの活動理念であると考えます。

また、「NEXUS」とは活動・人・学問・社会・機械要素・世代など様々なつながりを指しています。物事は単独では意味を成せず車両もチームも繋がって初めて機能します。ある一部が突出していても全体の機能は良くなりません。その繋がりをしっかりと認識し各々の要求を最大限満すことでより良い繋がりにしていく。そうすることによってこそ自ら誇れる一つの車両をメンバー全員で完成させることができると思います。

第二期チーム一同、この魅力ある学生フォーミュラ活動が続いていくように、この活動によって様々な事が繋がっていけるように、魅力であり理念でもある「Good Work on NEXUS」のもと全力で取り組んでいきたいと思っております。

第二期組織

基本的に第一期で築いてきたパート構成を引き継ぎつつも、よりパート間の距離を縮め皆で活動を盛り上げていけるように第二期チーム体制を構成しました。

プロジェクトリーダー	安居鉦平（理工学部情報科学科2年）
サブリーダー兼	
エンジンパートリーダー	石井聡（理工学部電気電子情報工学2年）
ドライブトレインパートリーダー	丹治進（理工学部機械工学科4年）
サスペンションパートリーダー	高田良平（理工学部機械工学科3年）
フレーム・カウルパートリーダー	保坂睦実（基礎工学部材料工学科3年）
マネジメント	パートリーダー全員（取り纏め 保坂睦実）

また昨年に引き続き機械工学研究会顧問の野口昭治教授にファカルティアドバイザーをお願いし、随時アドバイスをいただいております。

第二期大日程

第二期大日程

No	項目	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	チーム発足												
2	開発コンセプトの検討 ・ 他車使用の情報検討 ・ 開発車両仕様の決定 ・ パッケージL/O 図作成 ・ モックアップ作成 ・ 部品表の作成	→	→	→	→	→							
3	開発費用見積 (前年度実費より)	→	→										
4	コストレポート								→				
5	プレゼン資料										→	→	→
6	部品設計		→	→	→	→	→	→					
7	手配・加工製作			→	→	→	→	→	→				
8	組み立て、ASSY								→	→	→	→	→
9	テスト走行												→

↓ フレーム溶接
↓ 本大会

来年度、よりよい成績を残すために、車両の走行テスト機会を増やすこと・静的競技対策の充実は必要不可欠と考え、このような日程を立てました。現在、多少の遅れを調整しつつも部員一同車両製作に励んでおります。



fig. 2 HONDA 溶接講座にて



fig. 3 エキゾースト測定

各パートの現状

パート	現状
エンジン	<ul style="list-style-type: none">・ 吸気系 吸気漏れを起こしにくい接合方法を模索中 COSMOS(流体解析ソフト)を用い、吸気系の最適化を目指す スロットルは自作の予定・ 排気系 排気管の自作を決定・ 冷却系 エンジンに合ったラジエター能力を再計算・ 潤滑系 エンジンの重心を下げるためにオイルパンをカットする
ドライブトレイン	<ul style="list-style-type: none">・ バギー用の LSD を使用する事を決定・ CAD の練習・ 他パートとの話し合いにより、デフケース形状を検討中
サスペンション	<ul style="list-style-type: none">・ サスペンションジオメトリについて検討中・ ステアリングギアボックスの自作について検討中
フレーム	<ul style="list-style-type: none">・ CAD の練習・ フレーム用パイプ材の渉外中・ 他パートと話し合いにより、フレーム形状を検討中
カウル	—
マネージメント	<ul style="list-style-type: none">・ 会報製作・ 新歓準備・ 資金的不安が拭えないので対策を考案中

スポンサーの皆様へ

第一期活動においてスポンサーとして私たちを支えて下さった企業の皆様のご支援ご協力により、私たちは大会への参加を果たし総合順位 21 位 / 45 校、特別賞としてルーキー賞第二位という成績を残すことができました。改めて感謝の意を申し上げます。

大会参加を果たすも大会当日指摘された問題点や、目標としていた完走が果たせなかったことなど数々の課題が残りました。問題点クリアのための車両改良は必須で、完走に向け走行回数を増やすこと、データ蓄積にも勤めなければなりません。第二期はゼロからのスタートではないとはいえ、まだまだ発展途上であり、今後も皆様のアドバイスが必要と言えます。

今後も一層精進したいと思いますので、第二期も引き続きご支援いただけるよう何卒よろしく願いいたします。

ファカルティアドバイザーより

第2期 TUS Formula Racing 活動開始にあたって

ファカルティアドバイザー 野口 昭治

スポンサー各位の援助をいただきまして、2005年9月に行われました第3回全日本学生フォーミュラ大会に参加することができました。学生達にとっては何事も初めてで、マシンの製作は当初の計画からは大幅に遅れました。何とか大会に間に合わせることができまして、内心“ホッ”といたしました。マシンをゼロから製作し、自ら走らせ、そしてある程度の実績を残せたことは、大会に参加した学生にとって大きな自信と財産となったと思います。

これからは、第2期メンバーの活動となるわけですが、学生フォーミュラには、フレームを毎年作り替えて参加するという規定がありまして、参加を継続するためには、毎年新しいフレームを作る必要があります。スポンサー各位におかれましては、引き続きご協力をお願いいたします。今年度の経験を生かして、第2期の活動がスタートいたしますが、前回大会の順位を上回り、常連強豪チームとなるべく鋭意努力して参りますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。手短ではございますが、ファカルティアドバイザーとして挨拶とさせていただきます。

連絡先

東京理科大学理工学部野田文化会機械工学研究会

TUS Formula Racing

WEB: <http://www.ed.noda.tus.ac.jp/~Kikouken/>

E-Mail: tusfr2006@yahoo.co.jp

東京理科大学 野田校舎 〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641

東京理科大学基礎工学部材料工学科3年 マネージメント班広報責任者

保坂睦実

to.spica_from.spica@rose.plala.or.jp

090-7636-9700